

たてやまに新しい風を

重点施策

① 子育て・教育・福祉をもっと身近に

子育ても、介護も、教育も。困ったとき、すぐ動きます

② 計画的で透明な財政運営

将来世代に負担を残さない、責任ある町政

③ 開かれた町政と対話

町民の声が届く、風通しの良い行政運営

いまの立山の違和感

(ご意見から)

- × 一部の人がだけ
- × 特定の企業が
- × 限られたエリアに

日本有数の観光地「立山」の魅力をもっと発信しよう
文化やスポーツにも力を入れよう

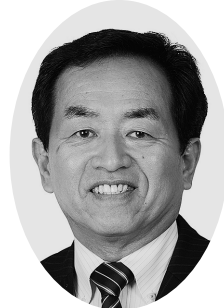
誠実に、謙虚に、クリーンに

渡辺まさのぶプロフィール

雄山中・雄山高校・中京大学体育学部卒 60歳
滑川警察署長、魚津警察署長、警察学校校長
富山県庁、外務省日本大使館、警察庁、富山市役所

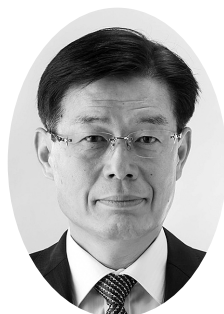
趣味・特技

DIY(ピザ窯・ウッドデッキ)筋トレ、
剣道五段、英語、アラビア語、手話
書道(準師範)



わたなべ

渡辺まさのぶ



立山町長選挙候補者

舟橋 貴之

たか ゆき

(60歳)

私には「あれもこれもやりません」「減税します」とは、なかなか言えません。近年の選挙で過熱している「サービス競争合戦」は、町財政に責任を持つ者として、極力慎まなければならぬと思っています。結局、私たちの子ども世代に過度な負担を強いることになるからです。町長には、20年後の納税者に対しても責任があります。

一方、国政では、アベノミクスの大膽な金融政策、つまり、日本銀行が大量に国債を買い入れ、市場にお金が大いに供給されたことなどにより、日本財政の信用低下、イコール円安となりました。その結果、燃料などの輸入品が高騰し、庶民は物価高に苦しんでいます。そのため、現政権は物価高対策の財源として赤字国債を大量発行せざるを得ないという矛盾を抱えています。

市町村は何のためにあるのか

もちろん、住民の命を守ることです。立山町役場は住民を守るための防波堤でありたい。外洋から打ち寄せる波を100%は防ぐことはできないが、緩やかにはできるはず。物価高に皆、困っています。しかし、全員に均等にお金を配るようなことはできません。想像力を働かせ、本当に困っている方に寄り添い、全力で支えることが、町長をはじめとする町職員の仕事です。

町には、農業の後継者不足、鳥獣被害、空き家、交通弱者、出生数の減少など多くの課題を抱えています。これら少子高齢社会を原因とする課題に対応するために策定した立山町再設計プランを皆さんに見えるように実行します。

具体的には、

① 農業 法人化による持続化や担い手に寄り添った支援体制

国は「地域農業構造転換支援事業」を始めます。担い手不足が懸念される地域に担当職員を配置し、交付金の申請などを支援します。

② 町営バスを再構築 AI技術を活用した予約制の乗合ワゴン車を運行

自宅そばの集落公民館等から、クリニックやスーパーなどに直接出かけることができるようにし、バス運転手不足にも対応します。

③ 成長戦略 子育て家庭を切れ目なく支援 学校教育環境の整備

保育料 第2子からの無償化を県の施策に歩調を合わせて進めます。
今夏、学校体育館にエアコン 住みたくなるまちのカギは教育環境です。

④ 身の丈に合った行政 施設の統合・複合化による将来の財政負担を軽減

これまでも、学校給食センター、みらいぶ、アカリエなど、国の有利な補助を活用して、複数の公共施設の統合・複合化を進めてきました。身の丈に合った行政が基本姿勢です。

経歴

利田小、雄山中、富山東高、明治大学商学部卒、元衆議院議長 河野洋平秘書、町議、町長